

Re-Inventing Japan Project

大学の世界展開力強化事業

Inter-university Exchange Program toward Medical and Dental Networking  
in Southeast Asia

東南アジア医療・歯科医療ネットワークの構築を目指した大学間交流プログラム

## Dental Training Program in Indonesia 2014

August 27 – September 8, 2014



UNIVERSITAS INDONESIA

## 目次

ページ

I	研修風景 Memorial Pictures	1
II	歯科医療研修プログラム Dental Training Program	9
III	参加学生募集要項 Application Guide for the Program	11
IV	研修日程 Schedule of the Program	14
V	参加者 Participants	16
VI	学生によるレポート（日本語・英語） Student Reports	17
VII	学生報告会 International Symposium and Seminar	54

## I. 研修風景 Memorial Pictures

### 1. 開会式 Opening ceremony



Dr. Margaretha Suharsini, Former Vice Dean, Dr. Bambang Irawan, Former Dean, Dr. Sri Angky Soekanto, Former Dean (Universitas Indonesia), Dr. Yoko Kawaguchi (Professor, TMDU), Dr. Yosi Kusuma Eriwati, Dean (Universitas Indonesia), Dr. Suchit Poolthong, Dean (Chulalongkorn University), Dr. Corputty Johan, Vice Dean (Universitas Indonesia) and students from Universitas Indonesia, Chulalongkorn University, and Tokyo Medical and Dental University

### 2. インドネシア大学歯学部附属病院見学

Visiting Dental Hospital, Universitas Indonesia







### 3. インドネシア大学デポックキャンパス見学 Visiting Depok campus, Universitas Indonesia





#### 4. スキルラボでの体験実習 Practical Experience at Skills Lab



#### 5. インドネシア大学歯学部学生とともに PBL 体験 PBL with students at Universitas Indonesia





## 6. 日本人学校幼稚園での健康教育

### Health education at Japanese kindergarten



## 7. 開業医・歯科企業見学

Visiting private clinic and dental material company





## 8. ヘルスセンターにおける母子歯科保健活動の見学

### Visiting the Health Center





9. Global Retreat with students from Indonesia, Thailand and Japan







## 11. 閉会式 Closing Ceremony





## II 歯科医療研修プログラム Dental Training Program

### 1. 研修期間

2014 年 8 月 27 日 (木) ～9 月 8 日 (月)

August 27 – September 8, 2014

### 2. 研修目的

学生の国際性をはぐくみ、国際的にリーダーシップのとれる自立型の若手研究教育者・医療者を目指すための動機付けを行うことが本事業の目的である。さらに本プログラムでは、以下の目的がある。

- ・ インドネシアの歯科保健制度や口腔保健状況を理解する  
(病院見学、開業医見学、コミュニティヘルスセンター訪問、PBL)。
- ・ 日本の歯科保健制度や口腔保健状況について、インドネシアの学生に対し説明することで、理解を深める (PBL、講義)。
- ・ インドネシアの文化について理解する (異文化理解)。
- ・ 英語によるコミュニケーション能力を向上させる。

### 3. 受け入れ側担当教員と訪問先

インドネシア大学担当教員 Dr. Melissa Adiatman

- ・ インドネシア大学 Salemba キャンパス (歯学部)、Depok キャンパス
- ・ ジャカルタ市内開業医
- ・ ジャカルタ日本人学校幼稚部
- ・ 保健センター 等

### 4. 参加学生 (13 名) Participated students from TMDU

歯学科 3 年 Dental Students (7 名) :

八田美怜 栗田明日美 赤羽根広大

見越葉介 山下亜子 元山裕太郎 柳原有依子

Ms. Mirei Hatta Ms. Asumi Kurita Mr. Koudai Akabane

Mr. Yosuke Mikoshi Ms. Ako Yamashita Ms. Yuiko Yanagihara

口腔保健学科 4 年 Oral Health Science 4<sup>th</sup> year students (4 名) :

宮本真巳子 岡田真季 古澤実夏 坂本仁美

Ms. Maiko Miyamoto Ms. Maki Okada

Ms. Mika Furusawa Ms. Hitomi Sakamoto

大学院生 Postgraduate Students (2名):

静間夕香 中山玲奈

Ms. Yuka Shizuma

Ms. Rena Nakayama

5. 引率教職員 supervisors (4名)

川口陽子 (健康推進歯学分野) : 9月3日 (水) まで

安田昌代 (口腔保健学科)

竹原祥子 (国際交流センター)

田中夏希 (国際交流センター)

Yoko Kawaguchi (Oral Health Promotion)

Masayo Yasuda (Oral Health Science)

Sachiko Takehara (International Exchange Center)

Natsuki Tanaka (International Exchange Center)

6. フライト

往路 2014. 08. 27 JAL725 成田／ジャカルタ 1050/1635

帰路 2014. 09. 07 JAL726 ジャカルタ／成田 2155/0725+1 (翌日着)

7. 宿泊先 Accommodation

2014年8月27日～29日 (2泊3日 1泊 7,865,000 IDR)

**Double Tree by Hilton Hotel Jakarta**

<http://doubletree3.hilton.com/en/index.html>

Jl Pegangsaan Timur No.17 Cikini, Jakarta 10310, Indonesia

TEL: +62-21-3190 4433 FAX: 62-21-3192 4877

2014年8月29日～9月7日 (9泊10日)

**Hotel Santika Depok**

<http://www.santika.com/santika-depok>

Jl. Margonda Raya Kav.88, Depok 16423

Phone : (62-21) 7721 9291 Fax : (62-21) 7721 9290

E-mail: [depok@santika.com](mailto:depok@santika.com)



### Ⅲ 参加学生募集要項

#### Application Guide for the Program

#### 平成 26 年度短期海外歯科研修プログラムへの参加学生募集について

事業推進責任者 田上 順次

本学は平成 24 年から 5 年間、文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～ASEAN 諸国等との大学間交流形成支援～」に採択されました。本プログラムは、東京医科歯科大学が、タイのチュラロンコン大学、インドネシアのインドネシア大学およびベトナムのホーチミン医科薬科大学と連携してコンソーシアムを形成し、我が国が有する先端的な医療・歯科医療機器や材料、最新の医療・歯科医療技術等を基盤として、東南アジアにおいて大学間交流を推進してネットワークを形成し、我が国の医歯学領域の世界展開力を強化する取組です。本事業の一環として歯学科及び口腔保健学科の学生が海外で研修や学生交流を行うことを支援します。

平成 26 年度については、以下の要領で参加学生を募集します。

1. 派遣先： 1) チュラロンコン大学歯学部（タイ）  
2) インドネシア大学歯学部（インドネシア）

派遣先大学	派遣期間（予定）	対象学生	募集人数
チュラロンコン大学(タイ)	平成 26 年 8 月 29 日（金） ～9 月 7 日（日）	歯学科 3～4 年	8 名程度
インドネシア大学 （インドネシア）	平成 26 年 8 月 27 日（水） ～9 月 8 日（月）	歯学科 3～4 年 口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻）3～4 年	合計 12 名程度

2. 研修内容： 大学附属病院の見学・健康教育・学生交流・ 海外公開講座の補助等
3. 支援内容： 往復航空券

4. 奨 学 金： 前年度の成績評価係数（GPA）が 2.3 以上の場合には、独立行政法人日本学生支援機構（以下 JASSO）から 7 万円の奨学金が支給されます。（JASSO 規程により日本国籍を有する者、または日本への永住が許可されている者のみ対象）

※ GPA2.3 未満の場合、または留学生には奨学金は支給されないが、研修への参加は可能。

※ 自分の GPA は、教務掛で確認してください。毎年 4 月に開示している GPA は、前年度までのトータルな GPA なので、この数値ではありません。

5. 選考方法：

書類選考、及び英語による面接

※面接の日時、場所等は申請書受付後、メールにて連絡します。

面接は 4 月下旬を予定。

6. 申込先・締切日：

募集要項を学務部教務課歯学系教務掛から受け取り、申請書（様式 1）を本学 HP 内 <http://www.tmd.ac.jp/grad/ohp/sekaitenkai/index.html> からダウンロードし、必要事項を入力の上、原本を歯学系教務掛に、データを [kokusai.adm@tmd.ac.jp](mailto:kokusai.adm@tmd.ac.jp) まで提出してください。

締 切：平成 26 年 4 月 18 日（金） 17:00 まで（時間厳守）

7. 事前研修：

派遣前に海外派遣英語準備コース・健康教育コースの受講が必要です。

※ 毎週木曜日放課後の予定です（約 10 回）。日程の詳細は選考後に連絡します。

8. 留意事項：

- 1) 派遣前に本学が加入する危機管理サービス” OSSMA” 及び海外旅行保険に加入すること（加入費用は個人負担）
- 2) 派遣終了後は、各種研修報告書を提出し、アンケート調査へ回答すること。
- 3) 歯学科学生は 10 月 24 日（金）に開催される学生交流プログラム報告会で成果を



発表すること。口腔保健学科学生も別途、報告会で発表する場合がある。

9. 単位認定：

海外歯科研修プログラムに参加し、一定の条件を満たす学生には以下の単位を認定します。

- ・ 歯 学 科 学 生： 自由選択科目「デンタルエクスターンシップ」1 単位
- ・ 口腔保健学科学生： 選択実習等の単位に含まれる

問い合わせ先

学務部教務課歯学系教務掛 加来、岡田（内線 5411）

国際交流課国際交流掛 柴田・田中（内線 4941）

#### IV. 日程 Schedule

	Date	Time	予定	備考
1	8.27 (Wed)	8:50 10:50 16:40	成田空港第二ターミナル集合 JAL725 (成田空港発 ジャカルタ行き) ジャカルタ着 インドネシア大学の黄色いバスでホテルへ 夕食 (UI、CU の学生と一緒に)	インドネシア滞在ビザ:35 米ドル (自己負担) ホテルチェックイン (Double Tree Hotel) 注: CU 学生は 14:45 にジャカルタ着予定 で同じホテルに宿泊。
2	8.28 (Thu)	AM (8:00-12:00)	<b>Global Retreat (インドネシア・タイ・日本学生の合宿研修) 1 日目</b> Opening Ceremony インドネシア大学歯学部 of の概要紹介 インドネシア大学歯学部学生による発表 コーヒープレイク	
		PM (13:00-16:00)	ジャカルタ市内ツアー (バス) <a href="https://twitter.com/CityTourJakarta">https://twitter.com/CityTourJakarta</a> インドネシア大学学生と夕食 @Sate Senayan, Salemba	教員、大学院生: 日本人学校へ下見に行く。
3	8.29 (Fri)	AM 8:00-	<b>Global Retreat (インドネシア・タイ・日本学生の合宿研修) 2 日目</b> UI Depok キャンパスへ移動	ホテルチェックアウト
		10:30-12:30	図書館ツアー、図書館カード貸与	
		PM 14:00 – 15:00 17:00 ~ 18:00 ~	Special Lecture (Prof. Angky) インドネシア大学卒業式出席 グループワーク (4 グループ 7-8 名/グループ) ① 歯科の教育システム ② 口腔保健状況についての 3 ヶ国比較 Dinner Cultural Night (1 カ国 30 分程度)	ホテルチェックイン (Santika Depok)
4	8.30 (Sat)	AM	<b>Global Retreat (インドネシア・タイ・日本学生の合宿研修) 3 日目</b> グループワーク 学生発表 (15min/group)	
		PM	閉会式 修了書授与 (CU 学生のみ)	
5	8.31 (Sun)	AM	異文化体験: Ancol Dreamland (Indonesian amusement park)	荷造りをして部屋移動 (Santika Depok) 注: CU 学生は 16:45 の便で帰国予定
		PM		

6	9.01 (Mon)	AM	PBL 1 DK1 IKGK3 : インドネシア大学歯学部 3 年生と一緒に PBL を行う。 (Orthodontic and Prosthodontic)	
		PM	開業医 (DW 8) 訪問 歯科企業 Pepsodent Dental Expert Center 訪問	川口先生 竹原 田中 <b>Prof. Angky, Dr. Melissa :</b> インドネシア大使館訪問 大使館に車両、訪問者の所属となま えを事前に連絡する
7	9.02 (Tue)	AM	ジャカルタ日本人学校訪問 (健康教育および講演) 9:30- 年少クラス指導 10:10- 年長クラス指導 11:00- 講演会	
		PM	異文化体験 : Jawa Jawi Java (1500 円/人) <a href="http://www.jawajawijava.com">http://www.jawajawijava.com</a>	
8	9.03 (Wed)	AM	スキルスラボ見学 (Orthodontic and Prosthodontic)	川口先生 : 朝の飛行機でバンコクへ移動。
		PM	PBL 準備 @インドネシア大学図書館 Dinner at Pronto Pondok Indah Mall	
9	9.4 (Thu)	AM	PBL2 DK2 IKGK3	
		PM	法歯学に関する特別講義 (Prof. Tamil and Dr. Tamil)	
10	9.5 (Fri)	AM	Primary Health Care Center 訪問 @Serpong (2 グループに分かれます)	
		PM	Closing Ceremony	
11	9.6 (Sat)	AM	異文化体験 : F widyanto clay center	
12	9.7 (Sun)	AM	異文化体験 : Taman Mini Indonesia Indah	
		PM 21:55	出国	国際線の空港税 IDR150,000 (自己負担)
13	9.8 (Mon)	AM 7:25	成田着	



## V. 参加者 Participants

TMDU: 13 students, 3 Faculty members and 1 staff

No	名前	フリガナ	FAMILY NAME	FIRST NAME
1	赤羽根 広大	アカバネ コウダイ	AKABANE	KODAI
2	八田 美怜	ハッタ ミレイ	HATTA	MIREI
3	栗田 明日美	クリタ アスミ	KURITA	ASUMI
4	見越 葉介	ミコシ ヨウスケ	MIKOSHI	YOSUKE
5	元山 裕太郎	モトヤマ ユウタロウ	MOTOYAMA	YUTARO
6	山下 亜子	ヤマシタ アコ	YAMASHITA	AKO
7	柳原 有依子	ヤナギハラ ユイコ	YANAGIHARA	YUIKO
8	古澤 実夏	フルサワ ミカ	FURUSAWA	MIKA
9	岡田 真季	オカダ マキ	OKADA	MAKI
10	宮本 真巳子	ミヤモト マミコ	MIYAMOTO	MAMIKO
11	坂本 仁美	サカモト ヒトミ	SAKAMOTO	HITOMI
12	中山 玲奈	ナカヤマ レナ	NAKAYAMA	RENA
13	静岡 夕香	シズマ ユカ	SHIZUMA	YUKA
14	川口 陽子	カワグチ ヨウコ	KAWAGUCHI	YOKO
15	竹原 祥子	タケハラ サチコ	TAKEHARA	SACHIKO
16	安田 昌代	ヤスダ マサヨ	YASUDA	MASAYO
17	田中 夏希	タナカ ナツキ	TANAKA	NATSUKI

Chulalongkorn University (4<sup>th</sup> grade): 6 students and 1 Faculty member

2014. 8. 27(Thu) ~ 8. 31 (Sun)

No	Name-Surname	Nickname	Sex
1	MISS CHARUTA KIATNIMITRA	Amp	Female
2	MISS DOLLAPHAT HELEN JENNER	Helen	Female
3	MISS NIPHAPHAT CHITCHUTRAKUL	Jay	Female
4	MISS PATTHIYATORN KAEWPHANAO	Fon	Female
5	MISS SIRIWADEE PRATHOMPAT	Ae	Female
6	MR THEERACHAI KANOKNATHEESAWAT	Arlong	Male
7	DR SORANUN CHANTARANGSU	Amp	Female

## Ⅵ 学生レポート

### Student Reports

赤羽根 広大 Akabane Kodai

9月27日から10月7日までインドネシア大学にて研修プログラムに参加した。私は歯学科生であるが他に口腔衛生学科、大学院生、先生方が参加した。インドネシアの言語は約270あるが英語は公用語でない。しかしインドネシア大学の学生は優秀であり英語でのコミュニケーションが可能であった。日本では日本語以外の言語に触れる機会が少ないのに対し、インドネシアは公用語がたくさんあるため第一言語以外を学ぶ敷居が低いのと、将来的に海外で活躍したいという意識を持っている学生が多いのが理由だと現地の学生たちは言っていた。見習うべきところが多いなと思った。

また勉強面に関して一番違うと思ったことは授業スタイルである。インドネシア大学ではProblem Based Learning (PBL) と呼ばれる学習方法を授業に取り入れている。日本で授業と言えば座学をイメージするが、インドネシアでは座学は一切なくグループ内で自ら疑問点を見つけ分担任して調べたのち互いに知識を共有する方式であった。全ての生徒が授業中に居眠りもせず積極的に意見を交換する様子には感心させられた。

インドネシアでは治安の良さそうなジャカルタやデポックのホテルに泊まっていたが、ローカルエリアの健康保健所に見学に行く機会があった。都会から離れると日本にはない生活環境、公衆衛生状態であり初めはバスから降りるのを少し躊躇った。普段見慣れない環境、そういったところでも健康状態の保持と増進に努める保健所スタッフの方々の奮闘する日々を見ることができたのは非常にいい機会であった。

インドネシアの大学病院と一般開業医による診療所に行ったときにも驚いた。インドネシアでは歯科医師が不足しており、また歯科衛生士という職種がないため治療中のバキュームは患者自身が行うことに大変衝撃を受けた。またインドネシア人の90%がイスラム教徒であるため左手で相手の身体に触れることは非常に失礼にあたる。そのため治療中も相手に直接接触の際は右手を使うのも独特である。小児歯科では治療中子供が静かであるためにスマートフォンを貸してゲームをさせていた。日本では子供にゲームをさせることをよしとしない風潮があるが、それは世界共通ではないのかもしれない。対照的に一般開業医は他の医院と差別化を図るため、まるで美容院のようなお洒落な雰囲気であったり、勤務する歯科医師がすべてカウンセリングの免許を持っていたり、完全個室で落ち着いた雰囲気であられたりと日本の開業医も驚くようなクオリティを有していた。

インドネシアでの研修を経て一番の感想としては、もっと世界を見なければならぬなということであった。当初私は、日本の医療は質、制度とともに非常に高い水準であるためわざわざ海外、ましては発展途上国に研修に行く意義などあるのだろうかと思っていた。しかし実際に行ってみると日本にない素晴らしいもの、日本では普通であるため気づかなかったが海外にはない素晴らしいものを沢山発見した。これらの経験をいかに身の回りの生活、医療に落とし込めるかを

考えていく上で、研修は大変有意義なものであった。

From 27 September to 7 October I joined dental practice program. This practice group consisted of students around dentistry. Indonesia has about 270 languages but English doesn't be used in Indonesia. Nevertheless Indonesia University (UI) students can speak English so fluently. Of course UE is very difficult to enter in, UE students are so clever.

But their English skills are too high, even so pronunciation and accent. So I asked them "Why can you speak so fluently?" They answered "We Indonesian has to go abroad and study skills, and would like to play active parts overseas' clinic in the future. We Japanese should follow their attitude of studying.

UI uses a little strange studying system. Its name is PBL (Problem based learning). In Japan, commonly studying system is lecture style (Teachers tell students their knowledge one-sidedly.). So we saw PBL system for the first time. PBL has not any lecture about subjects from their teacher, so students find their question and search for the collect answer their own. We admired that all students join their class actively.

In Indonesia, we stayed at high quality hotel in safe place. So we only saw city's public sanitation. But we got a chance to see rural area's health center in Depok. The rural area at Indonesia is so dirty, I felt. But Indonesian health center's staffs make an effort to maintain and increase residences' health.

I was surprised at the UE faculty of dental hospital and private clinic of family practitioner. Indonesia is much population, but there is little number dentists. In addition, Indonesia doesn't have dental hygienist. So patients have to use dental vacuum by themselves commonly in Indonesia. And the 90percent of Indonesian is Muslim. So doctors cannot touch their right hand to patients even when they practice. In pediatric dentistry, doctors lent children to smartphone and recommended to play games. In Japan, it is unnatural that adults let children play video games. On the contrary, private clinics are so luxurious for differentiation with other hospitals. For example, some clinics looked like beauty parlor. All dental chair is in calm private room. Or some clinics' dentists have the license of the counseling.

My first impression after training in Indonesia is "We have to go abroad and study other cultures life, medicine, medical care and tools." Before the training, I don't know the importance of abroad training because I think Japan's medical care level is so high. And it's actually true. In every aspect (ex. technique, system, studying, doctors), Japan's medical care is so good. But I went abroad and saw a lot of nice things of foreign countries. And rediscovered nice things of Japan. This training is really good to guess what we should do.



私は、このプログラムに参加する際、3つの目標を掲げて臨んだ。一つ目が、英語力の向上、二つ目は他国の歯科状況、歯科教育状況を知ること、三つ目が、異文化体験とそれに対する理解だ。この3点がこのプログラムによってどのように果たされたかを述べていく。

まず、一つ目は英語力の向上だ。私は、もともと英語を話すことに苦手意識を持っており、このことが、今回のプログラムに臨むにあたっての一番の不安要素でもあった。初日、インドネシアの学生やタイの学生に会った時、その不安はさらに大きなものになった。他国の学生たちは、皆、英語がまるで母国語であるかのように話すことが出来るのだ。自分の英語力がいかに拙いものであるかを思い知った。そのような状況の中で、始まったのが、グローバルリトリートというプログラムである。これは、他国の学生と二人で同じ部屋に泊まり、共に生活するものである。この生活の中で、私は、朝起きてから、夜寝るまで、英語のシャワーを浴び、自分の意見を伝えるために、英語を用いることを強いられる。最初は、大変だという気持ちと英語は苦手だという気持ちが強かった。そのような私に対し、同じ部屋の子は、私が話す英語を一生懸命聞いて、理解しようと努めてくれ、私が相手の言いたいことを理解するまで、何回でも言葉を変えながら説明してくれた。そのような優しい心遣いのおかげで、私は、英語を話すことに抵抗がなくなり、うまく伝えられなくても、頑張ってコミュニケーションをとってみようという気持ちになった。これは、自分にとって大きな成長だった。今まで、英語で会話をするということから、逃げてばかりいた自分が、自発的にコミュニケーションをとろうとしている。このように成長できたのは、このプログラムと優しく親切な他国の学生のおかげである。

二つ目は他国の歯科状況、歯科教育状況を知ることだ。これは、インドネシアの開業医や大学病院、保健所など様々な施設を見学させていただいたこと、インドネシアの学生と一緒に PBL の授業に参加させていただいたことによって達成された。見たところ、インドネシアは、たしかに虫歯の罹患率も高く、日本に比べ口腔環境が良好ではないうえに、歯科施設的环境が十分ではない点もあるかもしれない。しかし、その一方で、ユニットを個室にしたり、滅菌に力をいれている革新的な開業医や、peposodont という歯科検診や歯の磨き方を教えてくれる施設など日本も見習うべき取り組みもたくさん行っていた。このように、他国の歯科の取り組みを知ると、日本はどのような取り組みをしていくべきなのかなど学ぶことがいっぱいあった。また、インドネシアの歯学部学生と一緒に PBL を受けることで、彼らが自発的に学んでいる姿を見て、我々ももっと積極的に意欲的に学習すべきだと実感した。歯科状況、歯科教育状況を知ること、学んだことはとても多く、今後に生かせることが多かったのも、もっともいろいろな国の歯科状況や歯科教育状況を知りたいと思った。

最後が、異文化体験とそれに対する理解だ。このプログラムに参加するまで、私は、インドネシアの人々がどのような食べ物を食べ、どのような宗教を持ち、その宗教がどのようなものなのかなど、詳しく知らなかった。今回、実際その場に訪れ、その空気を感じ、その土地のものを食べ、景色を見聞きすることで初めて、インドネシアの文化を知り、理解することが出来た。これ

は非常に貴重な体験で人間として豊かさが増す体験だったように思う。また、Cultural night というプログラムで実際にタイやインドネシアの学生から、それぞれの文化を教えてもらい一緒に体験させてもらったり、インドネシアの学生から様々な場所に連れていただいたりする中で、その現地の人の優しさ、心の温かさにも触れられた。そもそも、私たちが今回上記のような素晴らしい財産を得られたのは、現地の方々の心遣いや協力があったからこそだと思う。彼らには本当に感謝の気持ちでいっぱいだ。このような素敵な人々に出会い、たくさんの財産を得たので、心からこのプログラムに参加できてよかった。

I had three goals when I took part in this program. There are the improvement of English skill, the awareness of dental system and dental education in other country, and the understanding of different cultures. I will talk about this program along these three goals.

Firstly, I'll talk about the improvement of English skill. I had been very bad at speaking English before I went to Indonesia. So this is my biggest anxiety of this program. The first day, my anxiety grew when I met Indonesian and Thai students because they can speak English as well as native. I found my English was so poor. In that condition, global retreat that is one of these programs began. Global retreat is communal living with one Japanese student and one Indonesian or Thai student. In this condition, I listened to English from early in the morning until late at night and forced to speak English for expressing my opinion. At first I strongly thought this program is so hard and I am not good at English. But my roommate was so kind because she tried to understand my speaking and to explain many times until I understood her English. Because of her, I changed my mind to try to speak English positively and I didn't hesitate any more even if I could not express my opinion. This is my big growth. I have escaped from speaking English until then. But now, I want to talk my friends in English. This growth was made by my new Indonesian or Thai friends who are so kind.

Secondly, I'll talk about the awareness of dental system and dental education in other country. In this program, we took a look at the general dental hospital, the independent dental clinic, and the health center in Indonesia and took part in PBL with Indonesian students. Surely the oral condition and the condition of dental institution in Indonesia are now developing. But some independent dental clinics gave high priority to sterilization by high technological machine and there was the institution that tried to give people the dental exam or tooth brushing lecture. In Japan, we don't have such opportunities to take tooth brushing lecture in childhood. Under this condition, these activities are necessary for us. Also, I learned how Indonesian dental students study by taking part in PBL. They studied by themselves and interactively. In Japan, we often receive the lecture passively. I realized we should study hard more positively and ambitiously. In

this way, we can learn many things, for example what is necessary for Japanese dental system and education, by visiting abroad. So I want to visit a lot of countries to know dental system and education of other countries and to make use of them in Japan.

At last, I'll talk about the understanding of different cultures. Before I went to Indonesia, I had never known what they eat, what religion they have, what the special feature that religion have, and so on. In this program, I went to Indonesia, ate Indonesian food, and watched various sights actually. It was my first time that I could face and understand Indonesian culture. This is very precious and valuable experience. And when Indonesian and Thai students showed us their cultures in cultural night that was one of the programs and also when Indonesian students took us to some tourist spots, it was very impressive to me that they gave me enormous kindness and warmth. I think this program was supported by such kindness and warmth. Thanks to them, I can get a lot of property of the experience and a lot of wonderful friends. I'm so happy to join this program. Deep gratitude for Indonesia!



今回の海外研修プログラムは多くのことを学ぶことができ本当に良い経験となった。まず感じたことは英語の必要性である。インドネシア大学の学生とチュラロンコン大学の学生と主に交流した。他国の学生とコミュニケーションを取るにあたって英語は不可欠であり、英語が使うことができれば世界の様々な国の人々となつなれることを実感した。私は英語が決して得意ではなく実際に他国の人に向けて使ったことはほとんどなかったが、この約2週間で学生との交流・インドネシアでの生活を通して積極的に英語を使うことで、自分の英語力・コミュニケーション能力を研修前に比べると向上させることができたと思う。しかし自分の伝えたいことを上手く伝えられなかったり相手とのコミュニケーションが上手いかなかったりすることが多くあったので、まだまだ英語力が足りないことを実感した。また、グローバルリトリートは3カ国の学生がグループワークで協力して話し合い、発表を行うというとてもいい機会であった。歯科教育について話し合い、他国の歯科教育や学生の意欲や考えを学ぶと同時にこれからの自分自身の勉強や日本の歯科教育を見つめ直すきっかけにもなった。インドネシア大学の歯学部3年生の学生のPBLの授業や英語での特別講義も受け、実際にインドネシアの歯科教育に参加した。PBLでは学生同士が英語で話し合いをしており、十分な準備をして話し合いにおいても積極的に意見交換をしてとても有意義な時間を過ごしていた。グローバルリトリートやPBL、授業の中でももっと自分に英語力があれば積極的に参加できたのではないかという場面が多くあった。これからさらに英語を勉強していく必要性を感じた。インドネシアやタイの学生の勉強への姿勢や意欲に驚くと同時に、自分の勉強への意識も高めることができとても良い刺激となった。異文化交流のイベントもあり、それぞれの国の文化を楽しみながらも学ぶことができた。また、インドネシアの歯科医療にも触れることができた。衛生面・食文化や人口構成など日本とは異なる環境の中でどのような歯科医療が行われているのかを実際にインドネシア大学の歯学部附属病院・開業歯科医院・歯科企業やヘルスケアセンターへ見学に行った。施設や設備や制度の違いを実際に見て、インドネシアと日本の歯科医療の違いや共通点を学んだ。人口が多いインドネシアでは歯科医師が不足しておりそのためにもう蝕予防に力をいれなければいけないことやヘルスボランティアの方々が歯磨き指導を行っていた。歯科医療に求められている今後の課題も日本とは異なっていた。日本にいて学ぶだけでは決してわからないことや実感の湧かないことを実際に自分自身で見て学ぶことができた。

他にもこの研修の中では、異文化体験で伝統工芸や音楽といったインドネシア文化を学んだ。普通に生活していく中でも、当たり前だと思っていたことが日本特有の文化だということを発見したり小さな文化の違いに気づくことも多くあった。また日本人学校へ行って幼稚園で健康教育をおこなった。ここでは歯磨きや手洗いうがいの大切さをテーマにした劇や、歯ブラシを使って歯磨き指導を行った。授業内で勉強していても実際に子供に向けての歯磨き指導は難しかったが、子供たちも喜んでくれたのでとてもやりがいがあった。

インドネシアでの海外研修に参加したことで、多くのことを学習・体験して学習面はもちろんのこと自分の持っている視野を広げることができたのでこのプログラムに参加して本当に良かったと思う。

I learned a lot and had a good time in this Exchange Program. First, I felt necessity of my English skill. Mainly, I communicate with student of University of Indonesia and Chulalongkorn University. I had to use English when I communicate with them. I thought that English connect to people who are around the world. I'm not good at English and I almost had not used English for foreigner. However I think my English skill and communication skill are better while stayed in Indonesia than before participate in this program. However there are many times I couldn't talk something I want to tell and communicate smoothly. Therefore I felt my English skill is not enough and should make progress my English.

In global retreat, students of three countries cooperated. We had group work and discussed with teammates. At last, we had a presentation. We discussed about educational system of dental schools. I learned dental education of foreign country and opinion of students. It gave me opportunity that I think about myself studying and dental education of Japan. I participated in dental education of Indonesia practically, class of PBL and special lectures. We studied about orthodontics in PBL class. Indonesian students prepared enough for the class and discussed in English. They exchanged their opinion positively. I thought the class was very meaningful. If I can speak English more, I could participate in the class more positive. Therefore I thought I would like to study English. Students of Indonesia and Thailand were really eager to study and I was surprised. My motivation of studying English and dentistry increased. In cultural night, we enjoyed and learned each country's cultures.

I learned about Indonesian dental treatments. Indonesia is different from Japan at hygiene, food cultures and population. I wanted to know what kind of dental treatment is performed in these situations. I visited to Indonesia University hospital, independent dental clinic, Pepsodent dental expert center and health care center. I saw institutions, equipment and system by my own eyes. I learned differences and common between treatments of Japan and Indonesia. Indonesia has a large population and dentists are not enough. Therefore they have to make their point of prevent cavity and general people teach how to brush your teeth as health volunteers. Problems concerning dental treatments also different from Japan.

I learned Indonesia culture. For example, I tried traditional arts and music ate traditional foods. While I stayed in Indonesia, I also realized little differences of cultures and customs

peculiar to Japan.

We also went to Japanese kindergarten and did health education. We played a role about importance of tooth brushing, washing hands and gargling. Then we did Tooth Brush Introduction by a tooth brush. We already studied TBI in class, but it's difficult to teach children. However I was pleased because children heard seriously.

I think not only I learned but also I could widen my outlook thanks to this problem. I would like to make use of this experience in my future.

本プログラムを通して、私は、歯科における国際交流の重要性と他国学生の受けている歯科教育、およびインドネシアにおける歯科医療の現状を学んだ。

まず、歯科における国際交流の重要性と他国学生の受けている歯科教育について学んだ。本プログラムでは、基本的にはほぼすべてのスケジュールをインドネシア大学の学生と行動を共にした。そのなかで、PBL などの共同での作業時にそれらの内容について各学生間で話し合うのはもちろんのこと、休憩時間や移動時間などの空いた時間にも他国学生と様々なことを話すことができた。PBL については、4 日目にグローバルリトリートでの PBL、6, 9 日目のインドネシア大学 3 年生の PBL へ参加した。4 日目のグローバルリトリートでの PBL では、インドネシア大学、チュラロンコン大学の学生との合同メンバーで、学生の教育システムについて話し合い、私たちの班では **Cooperative learning** について考えた。各国の教育システムを知るとともに、どのような教育システムがこれからの歯科教育に適しているかを考える良い機会になった。6, 9 日目のインドネシア大学 3 年生の PBL では、歯科補綴学の PBL に参加した。そこでは、学生が自主的に PBL を進め、その進行にほとんど教員が関わっていないことに驚いた。加えて、現地学生の積極的な学習・調査と、学生のみで進めているのにも関わらずとてもレベルが高かったことにも驚いた。また、PBL 以外でも、移動時間や空いた時間に、他国の学生とお互いの国や大学のこと、進路のことについて話したり、楽しく時間を過ごすことができたりしたことも、学生間の国際交流において、大きな価値があったと考える。他にも、8 日目にスキルスラボでの実習や放射線、予防の授業や、9 日目に法歯学の授業を受講したが、とてもわかりやすく、インドネシアの予防歯学や法歯学を学ぶことができて、とても興味深かった。

次に、インドネシアの歯科医療について、まず、2 日目にインドネシア大学の附属病院を見学した際に、院内の設備や学生による治療に、私たちの大学と若干の違いがみられたものの、大きな違いは見られなかった。しかし、10 日目に **Primary Health Care Centre** を訪問した際に、地域での健康教育について、まだ設備面や衛生面で日本との違いがみられた。しかし、保険の形態や母子検診など、日本との違いを学ぶことができて、とても勉強になった。また、7 日目に行った、ジャカルタ日本人学校幼稚園での健康教育では、現地に住む日本人の幼稚園生に向けて歯磨きの大事さや、歯磨き指導を行った。歯学科学生にとっては、実際に子どもたちにむけて健康教育をするのは初めてで、事前の準備から戸惑うところも多かったが、健康教育の経験がある口腔衛生学生のリーダーシップにより、無事成功することができた。内容については、子どもに親しみやすいアニメキャラクターを用いて、歯磨き指導も 5~6 人の子どもにつき一人の学生が付き、スモールグループで指導したため、指導しやすく、子どもにも伝わりやすかったと思う。当日は保護者も参観していたが、内容を聞いてもらって、一緒に理解してくれているようであった。



今回の研修プログラムを通して、日本とインドネシアの歯学教育、環境、文化の違いについて学ぶことができた。しかし、それ以上に他国学生と交流し、それぞれの知識や文化を交換することができ、また、彼らの高い意識から良い刺激を受けることができたので、とても有意義なプログラムであった。今回の経験を、歯科学生としてこれからの学業に生かしていきたいと考える。

Through this exchange program, I learned about importance of international exchanges in dentistry, the dental education in foreign country, and the real situation of dentistry in Indonesia. First, in this program, we basically work alongside almost all schedules with Indonesian students. We could discuss about topic of PBL or other works with them while the structured schedules. However, not only we discussed at that time, but also we could talk in free time about many kinds of topics. About PBL, we had 2 PBLs in this program. First, we participated to global retreat's PBL in 4th day. In this PBL, we discussed about the best way of education system in dentistry with UI and Chulalongkorn university students, and our group discussed about cooperative learning. It was good opportunity to learn about education system in foreign countries and what kind of education system is much to dental education in future. Next, we participated to the prosthodontics PBL in 3rd year student's class in 6th and 9th day. In this PBL, I was surprised that the students managed the class and carried forward by themselves. The teacher didn't mention about the class, and they just observed students. Moreover, I was also surprised the students researched aggressively, and the level of the class is very high despite no existence of teacher in this class. Additionally, besides PBL, we could share valuable time to talk about our countries, our future, and many kinds of topics. It was considered of value viewing from international exchanges between the students. We also had practical training in skills laboratory and lectures of radiology, preventive dentistry and forensic dentistry in 8th and 9th day. These lectures were very interested for me, and it was good opportunity to learning about dentistry of Indonesia.

Next, about dental treatment in Indonesia, we looked around in university hospital in 2nd day. I realized that there were a little difference from Japanese hospital when I saw equipment or treatment by students, but in totally, there were not big difference. However, when we visited to Primary Health Care Centre in 10th day, I realized many difference from Japan. There are different points about health education in rural community, equipment and hygiene perspective. I could learn these differences and understand the system of insurance and medical checkup for mother and baby. Moreover, we instructed a health education for children in Jakarta Japanese school kindergarten. Dental students didn't have an experience to instruct to children, so we were anxious about it. However, oral hygiene students who have experience took the leadership of preparation and practice. We played short roll about importance of washing hands and

brushing teeth, and after, we instructed how to brush their teeth. We used famous anime character in a roll and made a small group for TBI, so it was familiar to children. Their parents also looked our instruction and they might also understand our contents.

In this program, I could realize the differences of dental education, circumstances, and cultures from Japan. Moreover, I could communicate with foreign students and exchange each knowledge and culture. I think this program was very meaningful for me because I received good incentive from their high consciousness. I would like to apply this valuable experience to my academic learnings as a dental student.

今回インドネシアへの短期研修に参加して、これからの学習意欲に大きく影響を与えるであろう貴重な経験を沢山できた。共用語としての英語を話したり聞き取る能力の向上を感じ自信にもなったし、なにより海外（インドネシアとタイ）に、かけがえのない交友関係を得ることができた。彼らは勉強に対する意識がとて高くスマートで、如何なることに対しても好奇心が旺盛で、将来医療者となる人として見本となる存在であった。

今回の研修において私が常に思っていたのが、日本の教育のレベルの低さ、特に英語教育レベルの海外との違い、である。我々日本人は総じて英語能力が低く、インドネシアやタイの人々と会話する時に常に劣等感を感じてしまっていた。英語をどのように勉強しているのか？と他国の学生から問われることもしばしばあったが、中学 1 年生からみな義務教育として勉強しているという驚いた様子であった。日本の英語教育は書く・読み取る力を養成することに特化してしまっていて、肝心なコミュニケーション能力が向上していない。今回の研修で、英語の必要性肌で感じ、このまま英語を流暢に話せないまま大学を卒業したら国際舞台で恥をかくことになるだろう。日本に帰国した今も、積極的に英語に接し、コミュニケーション能力の向上に努めたい。

研修の一環で私たちはインドネシア大学の PBL に参加させてもらった。UI の学生と英語で話し合ったのだが、専門用語が飛び交う中、議論に参加するのにとても苦労したのを覚えている。UI の PBL では、事前知識を持たずに、本当に 1 からそのテーマの勉強をはじめ、学習の全てが学生に任せっきりのため、学生の意識はとて高い。日本のように基本的に講義を受けるだけの受動的なシステムではなく、PBL 主体である UI では積極的にならざるを得ず、とてもいいシステムだと思った。ただ、欠点としては、結論に達するまでに少し遠回りになってしまう点が挙げられる。そういった意味で、どこが真に重要なかがわかりづらいかもしれない。しかし、遠回りして試行錯誤する時間があるが故に記憶に定着する、とも言えるので、日本ではもっと PBL 方式の授業を増やして欲しい。

次に、インドネシアの日本人学校で行った健康教育について述べたいと思う。敷地内に入ると早速、子供たちが私たちに元気に挨拶してくれた。そこには、完全なる“日本”があり、一瞬自分たちがインドネシアにいることを忘れてしまうほどであった。大勢の子供たちの前で TBI(Tooth Brushing Instruction)をするのは初めての経験であり、入念に準備していたとはいえ、どのようなリアクションが返ってくるか正直不安であった。しかし、いざやってみると私たちの話にしっかり耳を傾け、笑ってくれる子供たちの姿があった。インドネシアでは歯科教育のレベルが日本に比べて低く、1 日歯磨きを一回しかしない、という子もちろほら見られ、それに加えインドネシアには甘い食事がとても多い。そんな中で、健康教育では確かな手応えを感じ、少しでも大事な知識を子供に植え付けることに成功したことはとても嬉しい。

今回の研修を通じて、自分の国際舞台に対する意識がとても高まった。日本にとどまっているのではなく、海外の同業者と積極的にコミュニケーションをとり、自らの研究や治療に活かしていく姿勢が大事であろう。また機会があればこのようなプログラムに参加し、国際舞台に友人を増やしていきたいと思う。

I participated in the short-term training to Indonesia this time and there was many valuable experiences that would greatly affect my learning will in the future. I felt improvement of the ability to speak English as the common language all over the world, so I have a confidence to use English now. In addition, I was able to get irreplaceable friends in the foreign countries (Indonesia and Thailand). They had a strong consciousness for the study and were full of curiosity for anything. I'd like to make a model of them as a healthcare worker. At the same time, I thought that I wanted to come to be respected as a dentist by them heartily.

In this training program, I always thought the lowness of the level of the English education of Japan. Particularly, the difference of the level between our country and Indonesia or Thailand is so big. Because of low English ability, we Japanese have always felt inferiority complexes generally when we talked with Indonesia and Thai people. I was often asked from the student of other countries how I studied English, but they looked surprised when they heard that all the Japanese students studied English as compulsory education from a seventh grader. The English education of Japan is specialized in training power to write and read it, and does not focus on the important communicative competence. In this training, I really felt that English is essential. I will disgrace myself in international stage if I graduate without being able to speak English. Now that I come back to Japan, I want to try to speak English positively in order to improve my communicative competence.

As a part of the training, I participated in PBL at Indonesia University. It is difficult for me to talk about technical content in English, because there were a lot of technical terms I don't know. In UI's PBL, students should start to study from the beginning without prior knowledge. Teachers entrust a student with all of learning, so the consciousness for study of the student become high. Indonesia University performs almost all classes in PBL, which is not the passive system like Japan. I think that PBL way is good because we cannot but become positive like it or not. But it is a fault to take a long time before we reach the conclusion. In this sense, it may be hard for us to understand where an important point is. However, trial and error may be a necessary factor for knowledge to take root in the memory. So, I thought that I wanted our university to increase the classes of the PBL form more.



Next, I want to describe about the healthy education that I performed at Japanese school of Indonesia. As soon as I enter the site, children said hello to me well. The place is really like Japan, and I forgot that I was in Indonesia for an instant. It was the first experience to do TBI(Tooth Brushing Instruction) in front of a large number of children. Although I prepared for the announcement elaborately, I can't guess what kind of reaction came back from children. But children listened to our story well and laughed when I announced. A level of the dentistry education is lower than Japan in Indonesia. Therefore, we were able to know the children here and there to brush the teeth only once a day. In addition, there are many sweet meals in Indonesia. In such an area, I felt a positive response by the health education that we performed. I'm very glad of having succeeded in implanting even slightly important knowledge in children.

Through this training, my consciousness for international stage increased very much. I think that we mustn't stay only in Japan. We should communicate with overseas person in the same profession positively, and it is important to make use of information in a study and a treatment. If there is another opportunity, I'd like to participate in such a program and want to increase friends in the international stage.

今回の13日間にわたるインドネシア派遣では様々な貴重な体験をし、その体験を通して多くのことを学ぶことができた。また、インドネシア大学やタイのチュラロンコン大学の歯学部 of 学生達と交流することもでき大変実りのある13日間であった。

まず、13日間の行程の中で一番多くの時間を過ごした場所はインドネシア大学であった。デポックにある校舎は新設されたばかりとあってとても綺麗で居心地が良かった。中でも、図書館は広々としていて書籍の数も多く、自習できるスペースも充実していて最適な学習環境だと思った。歯学部の施設内には講義室や実験室、スキルスラボなど医科歯科大学にもある設備が充実していた。その上、OSCEの医療面接試験の際に使用する全面がガラス張りになり、歯科用ユニットが備えつけられた部屋があることには大変驚いた。ジャカルタ市内にあるインドネシア大学歯学部付属病院を見学することもできた。大学病院は医科歯科の付属病院と同様に各診療科に分けられておりユニットなどの設備も医科歯科とほぼ変わらない印象を受けた。多くの学生や研修医が熱心に治療にあたっている姿がとても印象的であった。8日目にはスキルスラボにおいて、初めてファントムを使った実技に挑戦した。日本において私達3年生はまだ専門分野の実習を行っていないため不慣れでとても難しく感じたが将来歯科医になるという自覚を最も強く感じた瞬間であった。4年生から始まる実習ではもっと上達するように努力していきたいと感じた。

インドネシア大学における歯学部教育ではPBL中心の授業であり、学生がグループに分かれて1つの分野について自ら問題をみつけ調べ、発表をすることによって学習を進めていた。今回はそのPBL形式の授業に初回から参加し、講義中心の日本との教育とは全く異なった教育を実際に体験することができた。PBL形式の授業では学生が主体となって自ら積極的に取り組んでいかないと学習が進まないため勉学に対する高いモチベーションが常に必要であると感じた。一緒にPBLを行ったインドネシア大学の学生達がみんな細かいところまで自習をこなしてきていたため大変驚いた。

今回のプログラムを通して最も刺激を受けたことは、インドネシア大学やチュラロンコン大学の学生達の勤勉さや熱心さである。彼らはみんな英語ができるだけではなく学問的な知識も豊富でその賢さに度々驚かされた。その上、日本での歯学教育や日本文化にも興味深々な様子で、常に多くのことを吸収しようという姿にはただただ圧倒されたが私自身強い刺激を受けた。英語を上達させるにも多くの知識を身につけるにも、積極的に自分から行動することが必要不可欠であることを彼らの態度から教わったと思う。実際に、彼らから刺激を受けて、後半には間違いや失敗を恐れずに英語で海外の学生達と進んで交流しようとしている自分がいた。このプログラムに参加したことで、日本においての受動的でやる気に欠けた自分から少しは脱出することができたと感じている。これからも今回得たモチベーションを保って英語力の向上や普段の勉学に取り組

んで行きたいと思う。

最後に、今回のプログラムで出会うことのできたインドネシア大学やチュラロンコン大学の学生達と今後も交流を続けることで世界的な歯科の発展に少しでも貢献できるような歯科医になっていきたいと思う。

During this 13 days program, we had many precious experiences and we could learn a lot of things through it. Moreover we could communicate with the students of university of Indonesia and Chulalongcorn university and we could enjoy fruitful days.

First of all we spent most of the time in university of Indonesia through 13 days. School building in Depok was constructed recently, so it was clean and comfortable. Particularly the library was spacious and there were many books and much space to study. I would like to study hard in such a wonderful environment. In the institution of dental faculty there are lecture rooms, laboratories, skills labs like what can be seen in TMDU. It also has rooms whose walls are made of mirror and which has dental units for the medical interview test in OSCE. They surprised me a lot. We could also visit and see the hospital of dental faculty in Jakarta city. The hospital is divided into the department in the field of dental care and there are plenty of equipment like dental units in the same way as that of TMDU. All of students and resident doctors treated their patients enthusiastically and they inspired me a lot. On the 8th day of the program we challenged the training using phantoms for the first time in the skills lab. We have not practiced training yet, so it was very difficult for me. However this experience impressed on me that I would become a dentist and I would like to work hard in order to improve my skill in the training when I become 4th grade.

PBL lecture in which students were separated into small groups to find the problem and research on the topics in details and give a presentation, is mainly introduced in University of Indonesia. In this program we could participate in the PBL lecture and experience the education which is completely different from Japanese education that uses the lecture style basically. Through the PBL I found that high motivation for study is always important because PBL requires student's active attitude to learn. I was so surprised that all of the Indonesian students studied the topic in details completely by themselves.

The most impressive thing through this program was diligence and eagerness of Indonesian and Thailand students. They are not only good at English but also have much knowledge and

education of dentistry and their wisdom often surprised me so much. Moreover they are interested in dental circumstances in Japan and Japanese culture and they always make effort to absorb many things. Their attitude like that blew my mind and stimulated me. I felt that they taught me that acting positively by myself is necessary to improve my English skill and get much knowledge. Therefore in the latter half of the program I could challenge to communicate with foreign students actively of my own accord like them without fearing mistakes and failures. These experiences in the program changed me from my passive and lazy attitude in Japan. I would like to maintain my high motivation which I got and improve my English skill and study hard after the program is over.

Finally I would like to keep in touch with foreign students I made friends with in this program and cooperate together to contribute to the development of world dentistry.



私にとってのこの研修における最大の収穫は、インドネシア大学やチュラロンコン大学の歯学部生との交流を通じて、文化の違い、生活の違い、教育の違いなど、様々な問題について、それぞれの国の学生がどのように考えているのか意見交換できたことである。彼らとの会話から知ったこと、そして思ったことが沢山あり、研修前と研修後では物事に対する私の考え方がだいぶ変わったように思う。彼らとの交流で印象的だったのは、インドネシアの学生とタイの学生の向上心の高さである。同年代の彼らが前に向かって進んでいる姿を感じることで、こちらも頑張らねばと思った。また、彼らとの交流を通して、私たちの置かれた環境についての意識が改まった。あるインドネシア人から、本学における臨床実習の環境は大変恵まれているということを教えられた。インドネシア大学では、臨床実習において学生自身が自分の患者さんをみつけてこななければならないという事態が日常的にあるとのことだった。病院に来院した患者さんが学生による治療を承諾することで臨床実習が成立する本学のシステムに対して、彼女は“信じられない、うらやましい”と話していた。この違いは、インドネシアと日本における一般の人々の持つ歯科知識量の差によって生じているようであったが、私たちが普段当たり前のことと捉えていることが実はとても有り難いことであったと実感する体験だった。学生間だからこそできる相互交流は貴重なものであり、これからも彼らとの繋がりを大切にしていきたいと思った。今後はさらに英語力の向上に努めていきたい。

学生間交流から学んだこと以外にも、研修中に得たことは沢山あった。以下、PBL の授業に参加した際のこと、日本人学校幼稚園で健康教育を行った際のことを記述する。

インドネシア大学の授業は、私たちが普段受けているような講義形式のものは少なく、ほとんどが PBL 形式で進められていた。私たちが PBL に参加した際には、補綴治療という課題が与えられ、課題を理解するためにこれから自分たちで何を調べていく必要があるのかについての意見がもとめられた。インドネシアの学生たちが次々と意見を出していくのに対して、私は、彼らの意見交換の速さに圧倒されるばかりで、自分から発言することができなかった。講義を聴くという受け身のスタイルの授業に慣れている私には、自発的に考えるという姿勢が十分に身に付いていないのだということを痛感した。わからないことを積極的に聞いたり、他の学生の意見に対して自分の意見を真っ向からぶつけたりする光景は、日本ではなかなか見られないもので、私には新鮮なものだった。彼らと授業を共にして、勉学に対する彼らの積極的な姿勢に刺激されるとともに、学生がもっと積極的に勉学に取り組むことができる機会が日本の教育システムには必要なのではないかと感じた。

ジャカルタにある日本人学校幼稚園に行った際には、小さな子どもに対して何かを伝えることの難しさに直面した。歯磨きや手洗い・うがいの大切さを劇によって子どもたちに知ってもらう試みは、子どもたちの反応がよかったことから、それなりに成果があったのではないかと感じた。

だが、その後の歯磨き指導において、子どもたち一人ひとりと向き合ってみると、子どもたちが説明を理解できていないなと感じる場面が何回か見受けられた。重要なポイントに的を絞って、記憶に残るような指導を心掛けなければ子どもたちには届かないのだと実感した。

私がこの研修に参加しようと思ったのは、日本から離れて世界を見ることによって自分の視野を広げたいという思いからであった。インドネシアで普段の講義室での授業では学び得ないことを数多く経験できたことは私にとって大変有意義なことであったと感じる。この研修に参加できてよかったと心から感謝している。

After participating in this program, I think the most valuable experience is that I was able to listen to the foreign students' thoughts while I had cultural communication with the students of University of Indonesia and Chulalongkorn University. We talked about some differences of our culture, lifestyle, education and so on from various points of view. I am interested in what we talked about. I gained a lot of knowledge and thought deeply. I think that this experience changed my way of thinking. Through the cultural exchange, I felt that both Indonesian and Thais were very eager to do all of things. Their attitudes motivated me to try harder at everything. Besides, I realized that our environment is great and we are blessed. One of the Indonesian students said they had to look for patients who had the exactly symptom which they wanted to practice treating in their clinical year. After she knew the system of our clinical practice, she said that she couldn't believe that patients were willing to receive students' treatment. We considered the reason of this difference and came to a conclusion that the gap of the oral health literacy between Indonesian and Japanese people had caused it. She also said that most of Indonesian people had not noticed the importance of their own teeth yet and they often chose to leave some wrong as it is rather than receive dental students' treatment though they receive dentists' treatment. This talking made me aware that we study in comfortable environment. I think that there are many experiences that we can have only in exchanges between students. I will study English harder to keep in contact with the foreign students.

I learned many things not only through the communication with Indonesian and Thai students, but also through academic activities of this program. I describe what I learned when I joined PBL class and when I performed health education for children.

In University of Indonesia, the students usually learn in PBL (Problem Based Learning) class. When I joined PBL class, we had to explain our opinions about what we should do to understand prosthodontics treatment. Indonesian students expressed their opinions one after another. In contrast, I was overwhelmed by their discussion and not able to tell anything. I could not think of

what we ourselves should do. I realized keenly that I did not have a positive attitude toward thinking by myself because I always only listened to the professors' lecture and they gave us what we should understand in Japan. It is unfamiliar sights for me that they asked others about what they didn't understand and discussed intensively. I think that we have to have more opportunities to solve some problems by ourselves.

When I went to Japanese kindergarten in Jakarta and performed health education, I faced with the difficulty of explaining things to small children. We performed a play to tell the children the importance of tooth brushing, hand washing and gargling. I thought that they understood it because they seemed to have enjoyed it. However I changed my mind after teaching how to brush tooth to each of them. Some children could not grasp my explanation. I was shocked and learned that we had to focus on the most important thing and tell them impressively.

I decided to participate in this training program because I would like to see many things abroad and broaden my world. I was able to experience many things which I could not in the lecture room in Japan. I think sincerely that these experiences are of great worth and it is good for me to have been able to take part in this program.

インドネシアとの国際交流プログラムに口腔保健学科の学生が参加するのは初めてであり、歯科衛生士の立場からインドネシアと日本の違いを学び、歯科衛生士として将来どのように在りたいか考えるきっかけとすることを目標とし、今回のプログラムに参加させて頂いた。

インドネシアには、歯科衛生士の資格が存在しない。しかし、開業医では、1人の歯科医に対し二人のデンタルナースと呼ばれる歯科助手がアシストにつき、日本よりもアシスト体制が整っていることに驚いた。また、ヘルスセンターでは、ヘルスボランティアと呼ばれる人たちが、医師や歯科医が不足するなか地域の人たちの健康をサポートする体制が整っていた。“政府・保健センターは私たちがいなかったら何もできない”とモチベーションを高く持ち活躍している姿を目の当たりにして、誇りを持って働くことの大切さを教えて頂いた。

インドネシアには、日本における1歳半6歳児歯科健診のような歯科の健診がなく、歯科医師不足など地域の体制が整っていないことから、歯科における予防の取り組みに関して未発達な点が多い。また、インドネシアでは歯科衛生士の制度がない一方で、予防歯科先進国であるスウェーデンのように歯科衛生士が開業して、予防処置や健康教育ができるなど、予防歯科に関する取り組みや歯科衛生士の地位の差が国ごとに大きい現実を知り、驚かされた。世界で活躍する歯科衛生士の方々に話を聞いてみたり、他の地域の歯科事情を詳しく知りたいという気持ちが強くなった。

ジャカルタ日本人学校幼稚部で行った健康教育は、口腔保健学科としてのメインプロジェクトだったので、先生方にもお褒めのお言葉を頂けて喜ばしいことである。アンパンマンの劇を通して4,5歳児に手洗いうがいや歯磨きの大切さを知ってもらい、少数グループでのブラッシングの実践を行った。また、保護者向けのリーフレットや歯磨きカレンダーの配布を行い、今後の継続につながることを視野に入れた健康教育を行うことができたと考える。日本の幼稚園や小学校で健康教育をする機会はあったが、歯学部学生と合同で健康教育をすることはなかったので、事前準備を重ね新たな形の健康教育を成功することができ貴重な経験となった。インドネシアのお茶やジュースは非常に甘く砂糖がたくさん入っていることに衝撃を受けた。齲蝕罹患率が非常に高いインドネシアの食生活について事前に詳しく調査し、インドネシアに特化した生活習慣指導も出来ればよかった。

3ヶ国融合のグループワークやインドネシア大学のPBL参加を通して、歯学教育システムの日本との違いを実際に体感することができた。東京医科歯科大学は先生の講義主体の授業であるのに対し、インドネシア大学は学生主体の授業形態であり、生徒の学習意欲や積極性の差を痛感した。また、インドネシア大学やチュラロンコン大学は、英語で授業を受けていることもあり、日本人の英語力の低さゆえの授業への積極性の低さを感じた。今回は、インドネシア大学の学生



との交流期間が長かった分、英語が堪能であればより濃厚なコミュニケーションがとれたと思うと悔しかった。他国の学生の学習意欲や積極性に圧倒されつつも、必死についていこうと努力した。将来的に海外での活動も視野に入れて、英語の勉強を継続して続けていきたいと考える。このように、インドネシアと日本の違いをたくさん学び、歯科衛生士としての国際的視点を持つことができたと考える。インドネシア異文化体験では、3ヶ国それぞれの伝統の踊りを披露し交流を深めることができた。また、インドネシアの伝統楽器や工芸などを体験する時間もあり、楽しい思い出も作ることができた。インドネシア大学の学生や先生方は特に、おもてなしの心が素晴らしく至れり尽くせりで親切にして頂いた。今回の研修のアテンドやサポートをしてくださった先生方や学生の皆さんに感謝する。

I recently had the opportunity to visit the University of Indonesia. It was my first time to participate in the international exchange program with Indonesia for students of the oral health department. My goal was to learn of the many differences between Indonesia and Japan from the standpoint of dental hygienists. I also wanted to be a chance to think about how to work as a dental hygienist in my future.

In Indonesia, there are no qualifications for the dental hygienist. However, in a private hospital which I visited, there were two dental assistants called “dental nurses” who assisted a dentist. I was surprised how the assistant system functions in Indonesia and that it seem to be better equipped than in Japan. In the health centers of Indonesia, there is a system of “health volunteers” that support the health of local people. They are well equipped regardless of the lack of doctors and dentists. They have highly motivated and appear to flourish. In my observation, I learned that it is important to work with pride to flourish in my job.

Also, there are no program of scheduled dental exams; unlike Japan where 3 or 6 years olds get checkup. I was alarmed at the significant differences for preventive dentistry efforts and the distribution of dental hygienists. I really want to know more other country’s dental circumstances and what it will take to make them stronger.

The health education at a Japanese kindergarten in Jakarta was the main project for students of the oral health department. We communicated the importance of washing hands and gargling before and after meals for 4 and 5 years old students through the puppet show. Also, we practiced tooth brushing in small groups. We made leaflets for their parents and tooth brushing calendars. We were able to do health education for children to continue future oral care. There are such opportunities to educate kindergarten and elementary schools in Japan, but this was health education done jointly with students of dentistry. So, it was a valuable experience of a

successful education program. As elsewhere, juice and teas in Indonesia have lots of sugar. I'd like to further evaluate Indonesian lifestyle which carries a high risk of dental issues and perhaps learn to someday assist to help customize a specialized program for Indonesia to overcome their diet and improve oral healthcare.

Through a fusion of group work and participation between three nations including PBL in the University of Indonesia (UI), I could feel that I could make a difference in the education programs of dental education systems between Japan and Indonesia. The main classes at Tokyo Medical and Dental University (TMDU) are lectures. Classes at UI are delivered with students as the main subject –this makes differences in student learning motivation. At the University of Chulalongkorn and UI students also have English lessons. I realized that Japanese students are sometimes delayed about learning to express our opinions. The exchange program between TMDU and UI has a long history, so I felt a little shame that I couldn't speak English very well. I was impressed by the determination and motivation that Indonesian students displayed. I would like to imitate their passion for learning and also continue to study English always.

Part of my future goals, is to learn more of the cultural differences between Japan and Indonesia to gain a global point of view so as to become a more effective dental hygienist. During this cultural exchange, I was also able to observe and share traditional dances, make beautiful memories by learning about arts & crafts, and listening to traditional musical instruments of Indonesia. Overall, the hospitality of teachers and students at UI was inspiring. I appreciate them for attending and supporting us.

8月27日、インドネシアに到着した。蒸し暑い。おびただしい数のバイク、鳴り響くクラクション、縦横無尽に行き交う車とバイクと人、目を疑うような交通渋滞が目の前に広がった。これから13日間の研修が始まると思うと、期待と不安でいっぱいだった。今回の研修では、大学内見学、PBL チュートリアル、開業歯科医院やヘルスケアセンター見学、スキルスラボ実習、レクチャー、健康教育といった勉強から、文化交流、市内観光、テーマパーク、ビーチといった楽しい異文化体験まで、非常に充実した毎日を送ることができた。

今回最も痛感した事は、自身の英語力の乏しさである。UIの学生の話す英語は、非常に流暢で圧倒された。日常会話はごく普通に話せるものの、ディスカッションやPBLとなると彼らの会話のスピードについて行けず、話し合いになかなか参加できなかった。特にUI学生のPBLでは英語力の高さだけでなく、その学習方法に驚いた。PBLは与えられた課題・症例に対して、疑問点やキーワードを抽出し、自学自習をして後日発表する形式だった。彼らは自学自習で得た知識をパワーポイントなどにまとめて発表し、活発な意見交換をしていた。その発表内容は、学生が作成したとは思えないほど高レベルなもので非常に驚いた。私たちが大学でPBLを行っているが、UIほど多くの時間をかけていない。今までPBLの重要性をそれほど感じていなかったが今回参加したことでPBLは学生の学習意欲を向上させる重要な学習手段だと考えた。自らが普段から受け身の講義に慣れている日本人にとっては考えられないことであるが、私たちは、このような体制を見習わなければならないと考えた。

インドネシアの歯科事情については、病院見学や公衆衛生のレクチャーを通して知ることができた。国民の7割以上がカリエスになっているにもかかわらず、その半数以上が処置を受けていないという事を知った。歯科に対する意識がまだ十分に定着していないのかと思った。また、ジャカルタ日本人学校幼稚部において健康教育を行った。子どもにとって幼少期から衛生習慣を身につけることは大切なので手洗いうがい、歯磨きの必要性を劇で伝えた。健康教育はシナリオや媒体作りが大変だったが自分の役割に責任を持ち、協力しながら準備に励むことができた。今回行った健康教育が少しでも子どもたちやその保護者のモチベーションの向上のきっかけになればいいと思う。

この海外派遣プログラムを通して、海外の事情をもっと学びたいという思いと同時に、より一層英語力を向上させなければならないということを改めて感じた。最初のうちはリスニングがうまく出来ず、聞き返す事が多かったが、日毎に徐々に聞き取れるようになった。しかし、まだまだ自分の英語力は未熟である。自信を持って自分の意見を英語で言えるように努力していきたい。

今回の研修のプログラムすべてが大変素晴らしいもので本当に貴重な経験ができたと考える。UIの学生と色々な話をして、共に行動することで絆が深まった。彼らは常に快く、優しく接し

てくれたので、私たちも安心して毎日楽しく過ごすことができた。10月に彼らが日本に来た時は、彼らが楽しく過ごせるようなおもてなしをしたいと思う。

最後に、私たちを温かく迎えて下さったインドネシア大学の方々、引率して下さった先生方、そして、このような素晴らしい機会を与えてくださったすべての方々に感謝したいと思う。

On August 27th, I arrived at Indonesia. It was hot and humid. I was surprised at the terrible traffic jam, a lot of bicycles, cars, and people. It was full of expectation and uneasiness from now on when I thought that 13 days training began. In this training, I was able to send substantial days every day. From academic things such as visiting university, clinic and health center, joining PBL and discussion, hearing lectures, practical training at skills laboratory and performing health education to cross-cultural experiences such as cultural exchange, sightseeing, theme park and beach.

What I realized most was my poorness of English skill. UI students spoke English very fluently, so I was overwhelmed. Although I could speak daily life conversation, I couldn't join the high level PBL and discussion because their speaking was so fast and difficult, so I was ashamed. Especially, I was surprised at not only their English abilities but their study methods. In PBL class, a case is given, then students pick up questions and key words, and they study by themselves, later present what they researched using PowerPoint and other ways. They discussed actively. Their abilities were amazed things. I couldn't believe that such a great class was made by students. In TMDU, I studied PBL, but we don't take so many times, so I didn't know the importance. But I thought PBL is a good method of learning for students by themselves through this experience. We Japanese are used to a class of the passiveness, so we have to learn their attitudes.

In dentistry of Indonesia, I understood through visiting hospital and hearing lecture of public health. In spite of more than 70 % of nations are suffering from caries, more than the half doesn't receive treatment. I thought their thinking of dentistry is low. I went to Japanese kindergarten in Jakarta, and performed health education. It is important to form hygiene custom in childhood, so we told them gargling and hand washing and brushing tooth. It was difficult to make scenario and some characters, but we took responsibility for our own works and cooperated with each other. Children enjoyed our talking and tooth brushing instruction. I wish what we did will lead to increase of the children's and their families' motivation.

Through this overseas deployment program, the will that I'd like to improve my English skill more, I think. At the beginning, I couldn't catch what they said and asked again, day by day, my

listening ability was improved little by little. But my English ability is still poor. So I have to make an effort to study English, and then I'd like to talk with confidence.

I was able to have a really valuable experience, all programs were the best. I could make deep friendships with UI students. They were very kind so I felt relieved and enjoyed a lot every day. When they come to Japan in October, I provide best accommodation so that they can enjoy in Japan.

Finally, I really appreciate all people who gave such a splendid opportunity. UI students, teachers, all, thank you very much.

今回のインドネシア歯科プログラムでは、インドネシア大学の学生との交流、病院や学校の見学、PBL やグループディスカッションへの参加、開業歯科医院や **Primary Health Care Center** の訪問、ジャカルタ日本人学校での健康教育など多くのことを経験することが出来た。この13日間は短い期間ではあったがとても充実しており、毎日多くのことを学ぶことで、自分自身の視野を広げる良いきっかけとなった。

病院や開業歯科医院の見学や大学での講義などを通し、インドネシアの歯科事情について学ぶことが出来た。インドネシアでのう蝕罹患率は全国民の **70~80%** であり、そのうち **53.3%** は治療されていないという。その理由は歯科医師の不足や貧困の問題など様々であり、日本との大きな違いを理解した。また、インドネシア人の1日のブラッシング回数について、1回が約 **50%** と一番多く、**3回以上** 磨く人はほとんどいないという。また子どもに対し、ブラッシングを1年以内に始める母親の割合が約 **50%** であるということなどからも、日本と口腔衛生や予防に対する意識の差を実感した。

大学附属病院の施設に関しては、日本と同じように各外来に分かれており、それぞれの治療が行われている。システム自体は日本とほとんど変わらないという印象を受けたが、診療時の器材やブラケット上など清潔面に関しては、日本ほど気にされていないということを感じた。また診療時は、患者自身がエジェクターを持って操作していたが、日本では見られない光景であり、非常に驚いた。ブラッシング指導では、フォーンズ法で主に指導されていたため、日本でのブラッシング法を説明したところ、日本での指導方法は歯肉を傷つける可能性があるかと驚いている様子であった。また、デンタルフロスはコストが高いこともあり、ほとんど使用されていないということなど、様々な違いを知ることが出来た。このように、日本との違いや日本に取り入れるべき点を多く学んだことにより、海外の歯科事情を学ぶことの大切さを実感した。また、インドネシアには歯科衛生士ではなくデンタルナースという職種が存在し、仕事内容は基本的に歯科診療の補助であるというが、病院では実際に見ることが出来なかったことが残念であった。

ジャカルタ日本人学校の **4, 5 歳児** に健康教育を行うという貴重な経験をすることが出来た。手洗い・うがいと歯磨きの大切さを劇を通して伝え、歯磨き指導を行った。日本と異なる環境で生活する子供に対して、健康教育を行うのは初めてということもあり不安もあったが、事前に準備や練習を重ね、本番は子供たちの反応もとても良く、楽しく過ごすことが出来た。事前に対象となる人の生活環境などの情報収集を十分に行い、その対象にあった内容の健康教育を行うことが重要であると改めて実感した。

今回の研修ではグループディスカッションや **PBL** に参加し、インドネシアやタイの学生と多くの時間を共に過ごすことが出来た。また **Cultural Night** ではそれぞれの文化に触れ合うことで交流が深まり、とても有意義な時間となった。これらのプログラム以外にも食事や観光へも行き



とても充実した日々であった。英語でコミュニケーションをとる上で、相手の話がスムーズに聞き取れないことや自分の話したいことが上手く伝えられないことが多く、英語能力の低さを痛感した。しかし現地の学生はとても優しく接してくれ、話そうとするといつも助けてくれた。英語の勉強をこれからも続けていき英語能力を少しでも向上させたいと強く感じた。

今回の研修を通しこのように多くのことを学び、この貴重な経験を将来私が歯科衛生士になる上で必ず生かしたいと思う。広い視野を持って様々なニーズに応えられるように、これからも努力していきたい。

I could have many valuable experiences through this exchange program in Indonesia, for example intercommunion with UI students, looking around the hospital and university, participation to PBL and group discussion, visitation to private dental clinic and Primary Health Care Centre, health education in Jakarta Japanese school, and so on. It was a brief period for 13 days, however, these days were very productive days, and it was also good catalyst to broaden my mind through learning a lot every day.

Through the lecture in university and looking around hospital, I could learn about the condition of dentistry in Indonesia. The percentage of the patient who has caries is 70~80% in all the people in Indonesia, but 53.3% of them don't have any treatment. This is because of shortage of dental doctor, poverty and so on. Moreover, about 50% Indonesian people brush their teeth in a day, but a few people brush 3 times or more in a day. And, the percentage of a mother who start brushing her children in first 1 year is about 50 %. That is so say, I realized there are difference of attitude about oral health and preventive dentistry between Japan and Indonesia.

As for the establishment of university hospital, there are outpatient department each part of department, and they treat their own patient. They are impressed me that the system is same as Japanese hospital. However, I felt the cleanliness of the materials and table didn't be taken care as compared with Japanese situation. Moreover, in treatment, I was surprised that a patient used the ejector by himself or herself. When the TBI, doctor instructed how to brush by Fones brushing method. After that, I explained the brushing method in Japan. However, they are surprised about my opinion because they said that the method in Japan has possibility to cause their gums hurt. Additionally, I learned that a dental floss is not common because of the cost. Through learning these differences between Japan and Indonesia or the points that we should usher into Japanese system, I realized the importance of learning the condition of dentistry overseas. In Indonesia, there are no oral hygienists, but there are dental nurse instead of them.

And they work as assistant with dentist basically. However, it was disappointed that I couldn't see a dental nurse in hospital.

We have a precious opportunity that we instructed health education to 4 or 5 years old children in Jakarta Japanese school. We played short roll about importance of washing hands and brushing teeth, and after, we instructed hoe to brush their teeth. We were anxious that it was first time to instruct to children who lives different circumstance from japan, but we could enjoyed that because we prepared and practiced for it conscientiously in Japan. I realized again the importance of collecting information about the circumstance of audience and instruct in suited way with the audience.

In addition, we could share a lot of the time with Indonesian and Thai students together in this program, and we participated to the group discussion and PBL with them. Moreover, we had very a great time in Cultural Night which learned about their cultures and communicate with them. Outside these structured schedules, we could enjoy to have dinner or go sightseeing with them, so we could enjoy a lot. When I talked to them by English, I was difficult to understand what they said or tell them what I want to say. I really realized my poor English level by this experience, but they treat me very kindly. They always helped me when I felt difficult to talk to them. I really realized to keep study English and improve my English skills.

I learned a lot from this program, so I really would like to apply this precious experience to my becoming oral hygienist in future. I would like to make an effort to accommodate variety of request with a broad view.

インドネシアへの短期海外研修を通し、現地を訪れることで様々なことを学び、さらに今後自分の将来に向けて新たな課題を見つけることができた。

14 日間のインドネシア研修の初日から最終日まで一番痛感したことは、英語力の不足である。派遣される前は、インドネシアの学生もタイの学生も、英語力は私たちとそこまで変わらないと思っていた。しかし、インドネシア・タイの学生は英語で流暢に会話をしており、私は聞きとることも、自分の意思を伝えることもできなかった。しかし、少しでもコミュニケーションをとるために、笑顔や身振り手振り、知っている単語をいうなど一生懸命伝える努力をすると、相手も一生懸命意思を汲み取ってくれたり、ゆっくり話してくれたり、徐々に打ち解けることができた。英語力の向上の必要性と、コミュニケーション能力の重要性を学んだ。

研修プログラムの中に、インドネシア大学・チュラロンコン大学の学生とのディスカッション・インドネシア大学の 3 年生との PBL の授業があった。ディスカッションでは、PBL の授業についてディスカッションを行った。PBL の授業は、インドネシア大学・チュラロンコン大学ともに行っていることが分かった。しかし授業の頻度や方法などは国によって異なっていた。このディスカッションでは短時間で発表まで行ったが、グループのメンバーそれぞれが積極的に意見を出し合い、討論を行った。発表では割り当てられたところを英語でプレゼンテーションを行った。英語でプレゼンテーションを行うのは初めてで、非常に良い経験となった。PBL の授業では、歯科補綴学をテーマとして私たちの行っている PBL の授業と同じ同様に問題点の抽出・関連図の作成・解決策の検討を行い、調査項目を立てた。この過程で進行が私たちの PBL と比較すると、とてもスムーズに短時間で行っていた。2 回目に調査結果とまとめを行った。PBL の授業ではデジタルボードを使用し、それぞれがコンピューターで調べ、まとめてきたものをホワイトボードに写していたため、皆共有でき、理解がしやすかった。このディスカッションと PBL の授業を通じて、インドネシア大学とチュラロンコン大学の学生の学習意欲の高さに驚いた。日本の授業では発言しなかったり、協力的でない学生もいたりするのが現状である。しかし、今回の研修ではどの生徒も積極的に意見を出し、熱心に取り組んでいた。私自身、インドネシア大学の学生に刺激され、日頃の学習に対する取り組みを改めて見直そうと考えるきっかけとなった。

また研修では、国によって異なる医療技術・健康や医療に対する国民の意識の違いについても学んだ。インドネシアを移動中、さまざまな地域を見ることができた。日本では予防歯科が注目・重要視されている一方で、インドネシアでは予防の意識がまだまだ普及していないことが分かった。インドネシアでは、甘いものが好まれ、歯磨きも 1 日 1 回の人が多いということであった。予防を推進するためにさまざまな工夫を行っていたが、宗教や食文化により予防の概念を定着させるのは非常に大変なことであると考えている。アジアにおいて、日本の歯科治療は最先端であることを実感した。日本は、最先端の医療技術を世界に広め、またアジアの国々の模範であり続けなければいけないと考えた。

予防歯科のスペシャリストの歯科衛生士になるうえで、もっとより多くの知識や経験を積んで、今回研修した経験を生かし、発展途上の国の人々に予防を進めていきたいと考えた。そのために、英語力を向上させること、日本の歯科のみならず医療について理解することが課題とし、これからも勉学に励んでいきたい。

Through the short-term overseas training to Indonesia, I learned various things can't learn only in the field. I was able to find new challenges for the future.

In Indonesia training for 14 days, I was keenly aware of the lack of English proficiency. And I learned the need to improve the English language skills, the importance of communication skills. I couldn't listen and tell the intention also. However, it was possible to make an effort to convey hard for example to use words I know or gestures and smile, We were able to open up gradually.

Through the lesson of PBL with the third year of the University of Indonesia, and the discussion with students of the University of Indonesia and Chulalongkom University, I was going to reconsider the approach to everyday learning. Because all members were stating their opinions actively in class. I was very surprised at the height of the learning motivation of Indonesia and Chulalongkom students.

In the training, I also learned about the differences between public awareness for the medical care and medical technology and health that vary from country to country. While preventive dentistry has been attracting attention in Japan, awareness of prevention was not very popular yet in Indonesia. Indonesia government has been a variety of initiatives to promote prevention. But I thought there are a food culture, religion and lifestyle specific. So it is very hard to fixing the concept of prevention. I was realized that dental treatment in Japan is a state-of-the-art. it was considered to be must be continue to be a role model for countries of Asia also, spread to the world medical technology state-of-the-art. Japan must spread to the world medical technology state-of-the-art and be continue to be a role model for countries of Asia.

To become a dental hygienist specialists of preventive dentistry, I must learn more knowledge and more experience. And taking advantage of this experience, I would like to promote prevention in people of the developing countries. I decided the goal is to improve the English language skills and to understand not only medical dental Japan. I would like to work hard to study for the future.

・文化・風習について

インドネシア共和国は東西に長く伸びており、17,000 の島々から構成されている。人口は 2010 年の時点で 2.33 億人であり、約 300 の民族に分かれている。イスラム教徒が多い。熱帯性気候に属し、乾季と雨季に分かれている。

・歯科事情について

歯科医師一人当たり 15,000 人である。また、う蝕罹患率が高く、5 年前の調査によるとインドネシア人の約 70-80% がう蝕を有している。うち約 50% の者が治療を受けることができていない。1 日 1 回ブラッシングをする者が最も多く、1 日 2 回のブラッシングを推奨するヘルスプロモーションを実施している。Public School でヘルスプロモーションを行う上で教師の役割は大きく、歯科医師は教師に内容を伝え教師が学生に対して行うのが一般的である。

現在インドネシアには、30 の歯学部系大学があり歯科医師の教育は 6 年である。卒業後さらに 2-3 年専門分野を専攻するとスペシャリストになる。また、歯科衛生士は存在せず、代わりにデンタルナースがいる。デンタルナースは国家資格であり、歯科医師の診療補助を行う。保健センターは治療を行うだけでなく、コミュニティエンパワーを上げるため職員が地域にでて健康教育などを行う。また難症例は病院へ紹介をする。担当区域内にさらにスモールセンターが存在し毎月健診などを行う。ヘルスボランティアが非常に大きな資源である。

・医療保険制度

2014 年 1 月から国民皆保険制度がはじまった。行政に勤務している人とそれ以外の人を対象にしたものの 2 種類ある。後者は自ら保険会社に登録する。保険には 3 クラスあり、クラスごとに保険料や入院時の部屋の違いがある。入院可能日数はいずれも 60 日間である。保険に入っていればヘルスセンターの治療は無料で受けられる。病院では窓口負担はあるが、それも非常に安い値段である。歯科も保険に含まれ、除石や filling、抜歯などの基本治療が対象である。矯正治療などは対象外である。

・インドネシア大学における歯科教育について

授業の大部分が PBL システムである。週に 2 回 PBL の授業があり、初回でキーワード、シナリオ上の疑問、図、仮説、課題を挙げる。その次の回に各自調べた内容を発表し、結論を出すという流れであった。

・健康教育の実施について

園児たちの様子は日本とほとんど変わらない。家庭内での歯科教育はしっかりしており、プ

ラッシング方法については各家庭で異なっていたものの、朝晩 2 回しっかり磨いている子がほとんどであった。日本に戻る予定も決まっている子が多く、家庭内では日本の食事を取るなど日本で生活しているときとほとんど同じような生活を送っている園児が多かった。

- ・まとめ

インドネシアもベトナムやタイと同じように予防歯科の分野で課題が多く、う蝕予防が一番の課題であることが分かった。歯科教育に対しては日本とタイが似ている部分が多かった。しかし理想とする教育システムは学生間のディスカッションを通して共通であることが分かった。最も効率的な教育方法を考えるというのは、今大学院で行っている健康教育などにも生かせる内容であることを実感した。今回の研修で学んだことを今後の大学院での研究活動に生かしていきたい。

- ・ Culture and Custom

Republic of Indonesia is long from east to west and comprising 17,000 islands. The population is 233 million people on 2010. Most of them are Muslims. There are two seasons (rainy season and dry season) in Indonesia.

- ・ Present Status of Dental

There are 15,000 people per one dentist. About 70-80% people has dental caries and half of them can't be received the dental care. Most of them brush their teeth once a day. So dentists do the health promotion to brush their teeth twice a day. When they do the health education to students, the role of teachers in public school are more important than Japan.

There are 30 dental schools in Indonesia and 6 year course. They can become a specialist, if they study more 2-3years after graduate. There aren't dental hygienists, but are dental nurses. Dental nurses assist dentists and have national licenses.

Health center not only treatments diseases but also educates for community residents. The role of health volunteers is very important.

- ・ Health Insurance

Indonesia has public health insurance system with universal coverage from January on 2014. There are two types, for government employees and for others. Health insurances has three classes. They are different from the premium. If you join in this system, you can receive the service at health center for free. The services of health insurance are available for the most basic treatment, such as scaling, filling and extraction.



- Education System of University of Indonesia

They use mainly an active learning system. They have PBL (problem based learning) twice a week. PBL consists of two times. First, they pick up keyword, questions based on problems, making spider web, hypothesis and learning issues. Secondly they present about learning issues and make conclusion after discussion.

- Health Education

There are few differences in kindergartener between in Japan and in Indonesia. Most of them brush their teeth twice a day.

- Conclusion

There are many problems in the field of preventive oral diseases in Indonesia. I learned that it is the biggest problem to prevent dental caries there. We have the similar system of dental education in Thailand. I felt that I could use the experiences and knowledge for my research to have learned about the most effectiveness education system. The experiences through this exchange program lead to identify my future prospects as a dental hygienist, and give me a new vision of my future research.

今回のインドネシア大学での海外研修では、前回のベトナム研修の臨床経験とは異なる学びと経験を得られた。またインドネシア大学学生達と英語でコミュニケーションを取る機会を持つことができ、自信につながった。

本研修のプログラムの中で最も印象が強かった経験は、**3** 大学合同のグローバルリトリートのディスカッションである。海外の学生と共に、各々の大学で取り入れられている学習方法、理想とする歯学教育の在り方についてディスカッションしたことは、私にとって非常に貴重な経験となった。自身の意見を端的にまとめ、英語で伝えることの困難さ、積極的にコミュニケーションを図ることの重要性を実感することができた。さらに、インドネシア大学 **3** 年生の **PBL** に参加し、彼らと学習の時間を共有できたことも、貴重な経験となった。**PBL** での学習方法そのものに本学と大きな差異はなかったが、彼らのディスカッションやプレゼン能力は素晴らしく、また彼らの学習に対する熱意や姿勢は見習うべきだと強く感じた。私の今後の課題の1つとして、自身の考えや意見をまとめ、相手に伝えることのできる英語力を養い、積極的に英語でコミュニケーションを図れるよう励みたい。

また本研修では、日本人が通う幼稚園での健康教育に参加することができた。前回の研修とは違い、学部学生のサポートと指導側という立場で携ったため、媒体の見せ方や声の出し方等の細かな動き、健康教育の流れに重点的に目を向けることができた。今回このような形で携ることができ、園児の関心を引くための健康教育のシナリオや進め方について、改めて学ぶことができた。さらに、インドネシア大学の歯学部教育の在り方や理念、学習体系を学ぶことができた。日本ではなかなか見ることのない広大かつ、自然に囲まれたインドネシア大学のキャンパスや施設の見学、またスキルスラボや図書館を利用することができたのは良かった。さらにプライベートクリニックや地域のヘルスケアセンター、そこで活動しているボランティアの方々の訓練所を訪問することで、インドネシアの地域歯科を支える人々の活動内容や理念に触れることができた。彼らは地域の人々の健康状態を把握、管理し、人々の **QOL** 向上への重要な役割を担っている。インドネシアの歯科を支える多くの機関を訪れ、そこで活動する人々との交流を通じ、コミュニティケアに関する様々な情報や経験を得ることができたのは、歯科衛生士としての経験の浅い私に大きな影響をもたらしてくれた。

本研修への参加を通じ、インドネシアの歯科事情を学び、予防歯科の意義を再認識することができた。また国民皆保険制度が **2014** 年 **1** 月から始まったこと、日本の母子保健手帳が取り入れられている現状を知り、他国の歯科保健政策が根付いていることを知った。私はこの現状を見聞し、日本の充実した予防歯科に関する情報を積極的に海外に発信していく必要性を実感することができた。歯科衛生士は、全てのライフステージの人々への歯科疾患の予防を推進において重要な役割を担っている。私は今後、歯科衛生士の立場から、海外への情報発信に関わっていただろうと思う。また私は自身の足りない技術や知識を発展させ、全ての世代の人々が着手できる予防施策また、予防への概念を構築する一手を担えるようになりたい。さらに本研修から、海外の人と

の良好なコミュニケーション関係を築くことの困難さと重要性を痛感することができた。今回の研修で知り合えた学生との交流を継続させ、自身の大きな課題である英語に真摯に取り組みたいと考えている。今後も、本研修のような海外の方と積極的に情報交換をする機会が得られるよう努めていきたい。また、本研修で得た貴重な学びや経験を生かし、自身の中で発展できるよう励み、口腔保健学科の学生などの後輩に対してこの学びを伝え、還元していきたい。

This dental training program was very valuable for me as a dental hygienist. I have accumulated precious knowledge and experience in way of getting information about dental circumstance and communicating with many friends and teachers in Indonesia. My purpose of this program was to learn the differences between Japan and Indonesia, and to improve my English communication skill. I think I had a good opportunity to achieve my aim.

Through this program, I experienced discussion and lecture with University of Indonesia students, oral health education of Japanese kindergarten, and visiting private dental clinic, dental expert center, and health care center in community. The most impressive experience for me was “GLOBAL RETREAT”, which students of three universities dicussed topics about features of our learning style and an ideal dental education. Through this active discussion, I realized the importance and difficulty in building the smooth communication in English. When I took part in PBL, I was surprised at their abilities of discussion and presentation. I think I should learn from their enthusiasm and posture to learning. Sharing learning time with them was precious experience for me.

In addition, I could learn dental affairs in Indonesia by visiting University of Indonesia and dental clinic in community. I could know the activities and idea of people who supported the community dental care in Indonesia. This time I had many chances to communicate with local people and exchange information, it had a great effect on me.

In English communication skill, this program was a good experience and led to my confidence. I joined the overseas training program in Vietnam a half year ago. Though I fully realized lack of my ability on English conversation, it was my problem I must overcome. Building smooth communication relationship is necessary to share various information and knowledge, deepen mutual understanding.

This program provided me with valuable opportunity which not only learning but to make friends who studied dentistry in Indonesia. After this, I would like to continue this friendship, moreover come to grips with English conversation sincerely.

In conclusion, from this program I could deepen my knowledge and understanding about Indonesian dental affairs. I realized the necessity of transmitting information about preventive dentistry in Japan positively. From now on, I will improve my skill and ability that are insufficient, I would like to play the important role and be engaged in international collaboration as a Japanese dental hygienist. I'll make use of this precious experience, I would like to contribute to oral health in the world.

## VII 学生報告会

### 1. International Symposium

#### 国際シンポジウムでの発表（歯学科）

日時：平成 26 年 10 月 24 日（金）13：00～16：00

場所：MD タワー鈴木章夫記念講堂

参加学生：東京医科歯科大学歯学部歯学科 2, 3, 4 年生全員

チュラロンコン大学（タイ）歯科学生 8 名

シーナカリンウィロート大学（タイ）歯科学生 6 名

インドネシア大学（インドネシア）歯科学生 8 名

ホーチミン医科薬科大学（ベトナム）の歯科学生 8 名

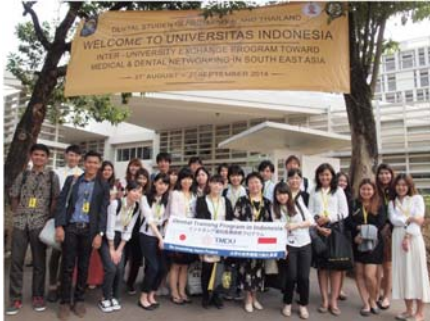
**Date:** October 24 (Fri), 2014 13:00-16:00

**Venue:** 2<sup>nd</sup> Floor, Suzuki Akio Memorial Hall, M&D Tower

**Participants:** D2, D3, and D4 (TMDU)

Overseas students from CU, SWU, UI, and UMP (30 students in total)

## Exchange program



## Group discussion



## Cultural Night



## PBL & Lectures



## Skills lab





Hospital of UI



DW8 Pepsodent



Health center



Health education



Yuiko Yanagihara

Cultural experience



Thank you for listening ☆



## 2. Seminar

### 報告会（口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻）

日時：平成 26 年 11 月 28 日（金）9：00～9：50

場所：口腔保健学科第 3 講義室

対象：口腔保健学科口腔保健衛生学専攻 2, 3, 4 年生

参加人数：約 80 名

**Date:** November 28 (Fri), 2014 9:00-9:50

**Venue:** Lecture room 3, Dental Building 1

**Participants:** 2<sup>nd</sup>, 3<sup>rd</sup> and 4<sup>th</sup> year students at Oral Health Science, Faculty of Dentistry



報告会の様子



## Basic Information of Indonesia

**Republic of Indonesia**

Capital city    Jakarta

Population    over 252million    people

Area            1910,000km<sup>2</sup>



**Japan**

Population    127 million

Arera          377,915 km<sup>2</sup>



## Religion

Islam      About 87%

Food	×	Pork, Alcohol
Praying	5 times a day	
Clothes	Not expose	

## Indonesia University(UI)

- Salemba Campus  
Faculty of Medicine  
**Faculty of Dentistry**
- Depok campus  
Faculty of Nursing, Engineering, Law, Psychology.....11faculties

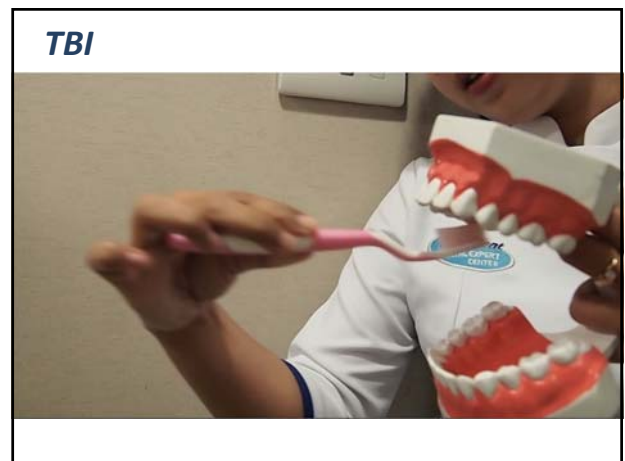
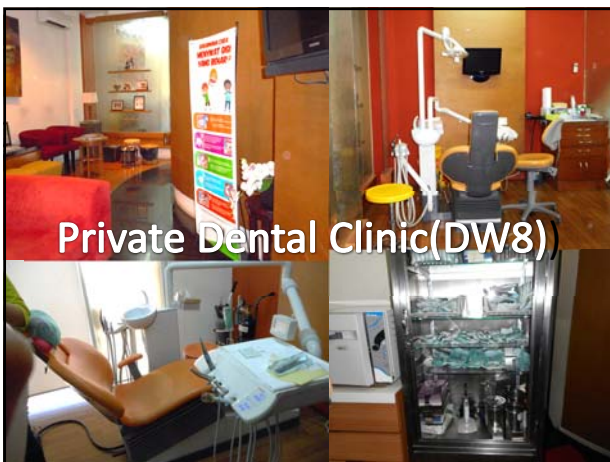


## Our schedule(Academic)

- UI campus tour
- Visit dental clinic & dental expert center
- Attend PBL class
- Group Discussion
- Skills laboratory
- Hear 3 lectures
- Health education at Jakarta Japanese kindergarten
- Visit primary health care center
- Attend UI Graduation Ceremony

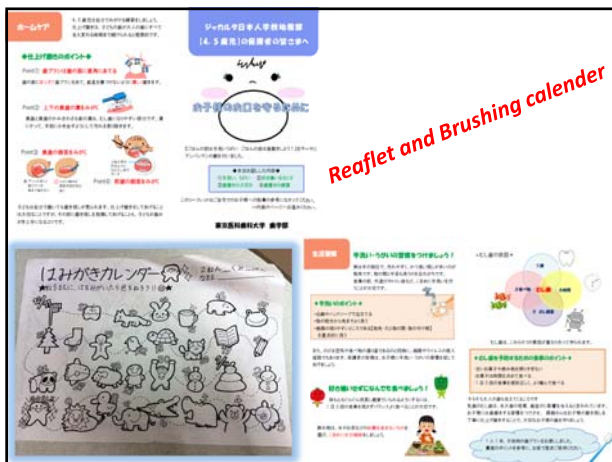








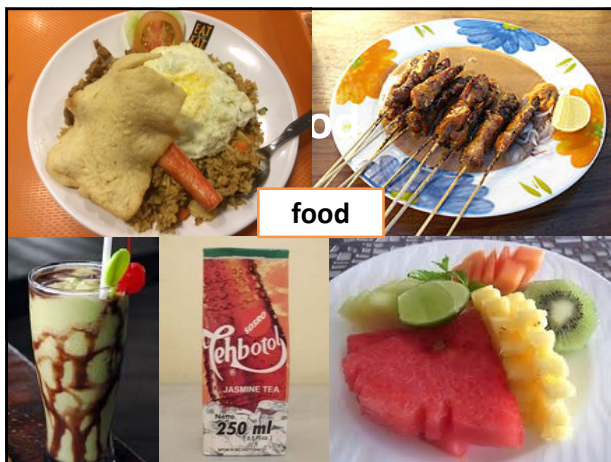






## Our schedule(Non academic)

- City tour
- Culture night (Festival)
- Food
- Island
- Museum
- Amusement park



**What we learned and what we thought**  
in the training program



*Thank you for your attention !*



平成 26 年 12 月 24 日発行 東京医科歯科大学

**大学の世界展開力強化事業運営委員会**

「TMDU Dental Training Program in Indonesia 2014」ワーキンググループ

田上順次 川口陽子 竹原祥子 安田昌代 柴田真希 田中夏希



〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45

東京医科歯科大学 国際交流センター

「大学の世界展開力強化事業」運営委員会